

# 発行によせて

経済学部初年次教育担当 浅原 知恵

2020 年度前期、私たち教員は、一度も顔を合わせたことのない新入生と、一度も顔を合わせることなく、オンライン上でフレッシュマンセミナーを実施するという前代未聞の困難な取り組みを求められました。本報告書は、8 名の教員が、それぞれに戸惑いながらも、より望ましいゼミのあり方を模索し、実践した取り組みの記録です。

経済学部では、城西大学学長所管研究として助成を受け、2019 年度から、初年次教育の充実に向けた準備を進めていました。城西大学に入学した学生たちが、フレッシュマンセミナーでの体験を通して、大学で学ぶ意欲と（非認知能力）と、アカデミックスキル（認知能力）を身につけられるよう、前期の教育内容の共通化をめざして各種取り組みを準備していました。学部教員の多くが、多忙なスケジュールの合間をぬって話し合いを重ねる中で生まれた「目玉」企画は、バスによる学外研修でした。①春日部市首都圏外郭放水路・龍Q館などを巡る埼玉県の水害対策施設・土地利用の見学コース、②川越市街やムーミンバレーパークを巡る埼玉県の観光施設・観光産業の見学コース、③羽田空港や羽田クロノゲートを巡る首都圏のヒト・モノの移動・流通拠点の見学コース、の3 コースが企画され、事前準備やふりかえりの方法など、様々なアイデアを出し合っていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定通りの形での実施は不可能となり、今年度のフレッシュマンセミナーは、初年次教育の目的を共有しつつも、教員それぞれの方針にしたがって実施することになったのです。

しかしながら、前年度中に、初年次教育の充実に向けての検討が重ねられていたことは、かつてない状況下でのゼミ運営を様々な形で支えてくれたものと思われ、掲載されている実践報告の随所に、その影響が垣間見られます。オンラインを利用したゼミは、ハイブリッド型も含め、当面持続することが予想されます。現時点で、前期の実践を振り返り、整理し、記録することは、今後の初年次教育、ひいては2年次以上のゼミ運営を考える土台となることは間違いありません。後期以降のゼミ運営について、よりよいあり方を模索されている先生方に広く読んでいただき、多少とも参考にしていただくことができれば、大変うれしく思います。